

○今月の病害虫発生状況○

- ・炭疽病の発生は平年並で、うどんこ病及び萎黄病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類の発生はやや少なく、アブラムシ類の発生は平年並です。
- ・ハスモンヨトウ幼虫の発生は平年並ですが、フェロモントラップでの成虫誘殺数は平年並です。

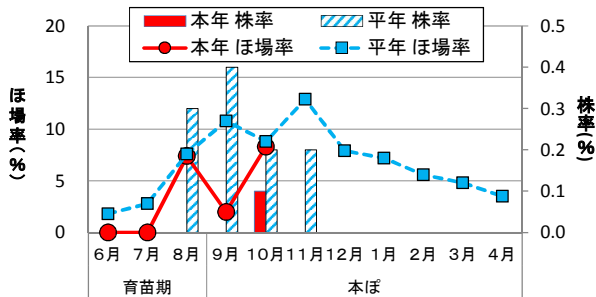


図1 炭疽病発生ほ場率・株率

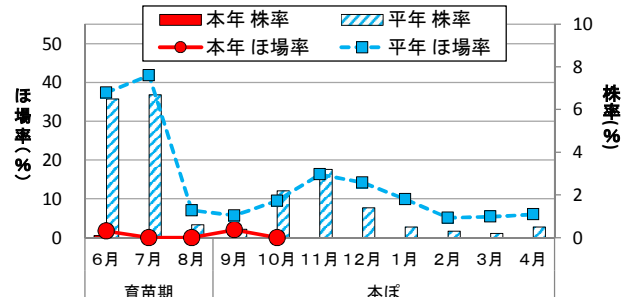


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率

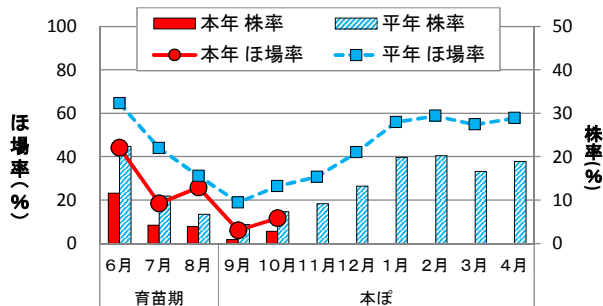


図3 ハダニ類発生ほ場率・株率

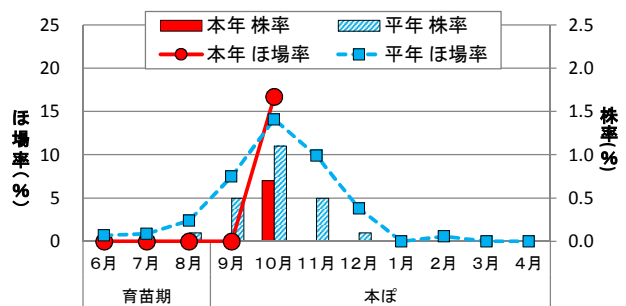


図4 ハスモンヨトウ発生ほ場率・株率

○今月の技術情報（技術指導班）○（10月）

- ・記録的な豪雨を伴った台風19号の影響により、県内各地でハウスの損傷や苗が冠水する被害が発生しました。
 - ・苗の調達に困難であり、定植時期が遅くなるほど生育が緩慢になることから、定植してある苗を復活させることに重点を置き、次の管理を優先しましょう。
- (1) 冠水や浸水したハウスは、水中ポンプ等を利用して、速やかに排水対策を行う。
 - (2) 病害（炭疽病等）の発生が懸念されるので、速やかに登録農薬を散布する。
 - (3) 泥等の付着により病害の発生が懸念されるので、特に生長点付近に付いた土砂をよく洗い流す。
 - (4) 土砂等の流入やハウスが損壊した場合は、土砂等の撤去、ハウス修繕を速やかに行う。
 - (5) 畝が崩れている場合には、速やかに修繕を行う。大規模に崩壊した場合は、土壌水分が適湿になるのを待って、畝上げ機等を利用して畝の修復を行う。
 - (6) 草勢維持のため、窒素入り葉面散布剤等で追肥する。
 - (7) 浸水した動力噴霧機、かん水装置、モーター、暖房機等の機器の稼働を確認し、故障している場合は早急に修理する。
- ・これから徐々に夜温が低下してきます。保温開始のスケジュールを再度確認し、計画的に作業を進めることが重要です。



写真1 炭疽病による株の萎凋

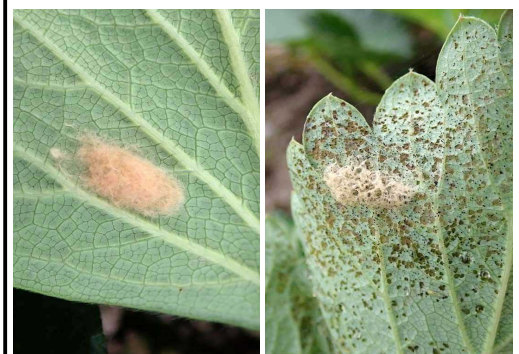


写真2 ハスモンヨトウの卵塊(左)と若齢幼虫による被害(右)